

西郷地区 地域づくり懇談会 議事録

- 1 日時 平成28年11月15日(火) 19:00~20:20
- 2 会場 西郷地区公民館
- 3 出席者 地元出席者 17名
市側出席者 16名
深澤市長、羽場副市長、河井総務部長、高橋防災調整監、田中中核市推進局長、田中企画推進部長、久野地域振興局長、綱田都市整備部長、渡邊秘書課長
＜河原町総合支所＞窪田支所長、西尾副支所長(司会)、西山市民福祉課長、長谷産業建設課長
＜事務局＞岡本協働推進課課長補佐、酒本協働推進課主任、北村協働推進課主事

4 中核市移行についての説明

(中核市推進局長) ※チラシに基づき説明

5 都市計画マスタープランについての説明

(都市整備部長) ※チラシに基づき説明

6 地域でのまちづくりの取組状況について

※DVDを放映

7 地域の重要課題について

1 工芸の郷づくりについて

＜地域課題＞

このことについて、8月2日にいなば西郷むらづくり協議会が、市長に「工芸の郷づくりに資する新たな支援制度の創設」に関する要望書を提出しました。

8月26日に、市から「支援の方向で研究する」との回答をいただき、地域として期待を寄せているところです。

予算化に向けて、よろしく願います。

＜担当部局の所見等＞

【地域振興局】

本市では、鳥取市創生総合戦略並びに第10次鳥取市総合計画において、交流人口の拡大に向け、文化芸術を生かした個性あるまちづくりを推進するため、鳥取県や商工会議所等と連携し、手仕事の作家の移住促進による工芸村の開設を目指すこととしています。

西郷地区の工芸の郷づくりについては、この郷づくり推進のため、9月に「一般社団法人西郷工芸の郷あまんじゃく」が設立されました。

団体が進める、自らの知識や技術などを生かして起業・創業するアーティスト等呼び込み取り組みなどを支援することで、文化芸術の推進や移住定住の促進が図られることを期待しています。

(地域振興局長)

10月29日に開催された第1回西郷工芸まつりは多くの方で賑わったとのこと、私が午後3時頃に伺った時も、自動車が満車状態でした。

本市では、鳥取市創生総合戦略ならびに第10次鳥取市総合計画の中で、交流人口の拡大に向けて、文化芸術を生かした個性あるまちづくりを推進するため、県や商工会議所等と連携して、手仕事作家の移住促進による「工芸村」の開設を目指すこととしており、西郷地区では、すでにこういったことに具体的に取り組んでいただいています。

西郷地区の工芸の郷づくりは、「一般社団法人西郷工芸の郷あまんじゃく」が設立されたことにより、市として支援がしやすくなったと考えています。以前から、若い作家を呼び込みたいという声をお聞きしていましたが、市が個人給付的な支援をすることは難しい部分があります。あまんじゃくが行うのは、自ら知識や技術などを生かして起業・創業するアーティスト等呼び込み取り組みであり、市としてこれらを支援することにより、文化芸術、地域振興と移住定住の促進が図られることを期待しています。

支援策として、12月の補正予算で、空き家の整備や起業のための設備投資に対する補助制度を準備しているところです。平成29年度も、地域が呼び込んだ人材を支援するよう取り組んでいきたいと考えています。

(地元意見)

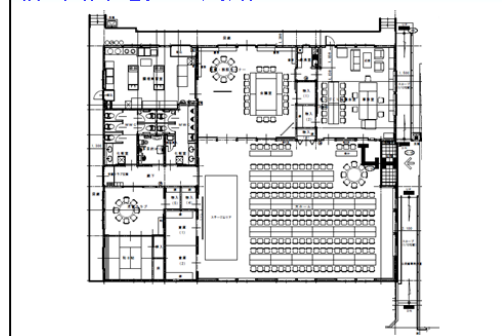
私は10年前に西郷地区に移住して、現在はむらづくり協議会の手伝いをしています。今度は「一般社団法人西郷工芸の郷あまんじゃく」の代表理事まで仰せつかり、毎日、火の車で走り回っています。

工芸の郷づくりについて、市から多大な支援をいただき、本当にありがとうございます。今後ともぜひよろしくお願いいたします。また、先日開催した西郷工芸まつりには、市長にも来ていただきました。本日は、ここに前田昭博さんが来られていませんが、前田さんからもお礼の言葉と、これからもよろしくという伝言を預かっています。

西郷地区には、新しい地区公民館が建設されます。新しい地区公民館には非常に広い部屋があります。むらづくり協議会が毎年開催している敬老会を、その広間で開催したいと考えています。120人程度の高齢者が、楽しく敬老会ができるようになります。

敬老会だけではなく、西郷工芸まつりや工芸の郷の拠点施設として位置付けたいという意図もあります。いろいろ問題もあると思いますが、来年の第2回西郷工芸まつりは、ぜひこの広間で開催したいと話していますので、側面的な支援をお願いします。簡単に言うと、ここで物を販売したいという話です。地区公民館というのは、物の販売

新 西郷地区公民館



は原則できません。コミュニティーセンターにする、特区にするなど様々な方法があると思います。それ以外にもいろいろな技があると思いますので、検討をお願いします。

今、この場で回答がなくてもよいです。私達はそんなことを考えているということを伝えたいと思います。

(地域振興局長)

西郷地区のような取り組みは、どんどん進めていっていただきたいと思います。

例えばですが、図書館の講演会に著者が来られた時に、著作を「資料提供」という形で販売することもあります。

(地元意見)

私も、むらづくり協議会で活動しています。

代表理事が火の車と発言したとおり、むらづくり協議会の活動とあまんじゃくの活動とで、本当に大変なことをされています。市は、地域おこし協力隊の制度を活用することを考えていませんか。ぜひとも人材が欲しいと思っています。

(地域振興局長)

現在鳥取市では、9名の地域おこし協力隊が活動しています。初めての協力隊員には、佐治町に入ってもらっています。地域おこし協力隊は総務省の制度で、都市部から若者を呼び込み、3年間いろいろな活動をしてもらう取り組みです。

西郷でぜひということであれば、それについても考えていかなければなりません。ただ、現在、希望があればどこでも入れるわけにはいきません。というのは、地域おこし協力隊の制度は、最終的には総務省から支援もありますが、ある程度の経費が必要です。また、目的の一つに「協力隊員の定住」がありますので、地域の中で自立し、生業ができるような取り組みが必要です。

実は、河原町、用瀬町、佐治町の鳥取市南地域の中で地域資源を活用した取り組みをするということで、すでに協力隊員に1人入ってもらっています。それと別に、佐治町には4名の協力隊員もいて、南地域はかなり手厚い状態でもありますので、全体のバランスを見ながら進めていきたいと思っています。

2 地区公民館新築後の旧施設の早期解体について

<地域課題>

西郷地区公民館の新築工事が進められており、地域の期待が高まっています。

つきましては、新築移転が終了した後は、旧施設を早期に解体していただくようお願いします。

旧施設は築50年以上経過して耐震性が低く、前壁が剥がれ落ちるなど、住民にとって危険な建造物である点、さらに敷地内に地区の消防車庫を新築する計画があるため、旧施設の解体撤去は必

新 西郷地区公民館



要不可欠です。

善処方よろしく申し上げます。

<担当部局の所見等>

【地域振興局】

現在本市が取り組んでいる地区公民館の改修等は、

(1) 安全安心のため平成31年度までに全公民館が新耐震基準（昭和56年以降）を満たしたものとなるよう、耐震改修や建替えを行う

(2) 地区公民館1階トイレの男女別化を図る

(3) 地区公民館事務室と大会議室へのエアコンの設置について重点的に取り組んでいるところです。

西郷地区公民館は、新築工事完了後移転を行うため現施設が残ることとなりますが、現時点で建物の利活用案もなく、いずれは撤去するものと考えています。現施設の解体撤去時期は重点事業完了後、施設の状態等の確認を行いながら、総合的に判断したいと考えています。

(地域振興局長)

現在の地区公民館は、昭和37年に建築されました。昨年12月には外壁が落下したため、緊急点検を行いモルタル補修を実施しました。耐震性もかなり低い状態です。

現在、本市には61の地区公民館があります。本市が取り組んでいる地区公民館の改修は、1つ目に安心・安全のため、平成31年度までに全地区公民館が昭和56年以降の新耐震基準を満たすものとなるよう、耐震改修や建て替えを行うこと、2つ目に、1階トイレの男女別化を図ること、3つ目に、事務室と大会議室にエアコンを設置することの3点について、重点的に取り組んでいるところです。

西郷地区公民館は新築工事完了後に移転を行うため、現地区公民館が残ることになります。具体的な利用案もなく、将来的にはいずれ撤去するものと考えていますが、解体撤去の時期は、3つの重点事業完了後に、現地区公民館の状態等を確認しながら総合的に判断して進めていきたいと考えているところです。

西郷地区公民館



8 市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

(地元意見)

県政だよりを始め、とっとり市報など、多岐にわたり情報が提供されています。それは集約してあるのでよいのですが、これ以外に、非常に多くのチラシが入っています。地域内のチラシはある程度やむを得ない面もあると思いますが、それにしても本当に数が多いです。

これらはただで作れる物ではありません。それぞれに人が携わっているし、何らかの形

で補助が出ているのではないかと思います。もう少し整理できないのでしょうか。無駄なものが多いのではないかとつくづく感じています。

お金を伴っていることだし、鳥取地域とならまだしも、河原町内でも土日は行事が重複することがあり、少ない住民を取り合っています。

(深澤市長)

毎月のとっとり市報に挟み込まれた資料の量が多いというご意見は、私も時々お聞きします。県政だよりやチラシなども一緒に挟み込んでおり、配っていただくのも大変だと思います。もう少し何とかならないかというご意見だったと思いますので、持ち帰りたと思います。

行事も多いとのご指摘をいただきました。例えば10月には文化祭等が多いなど、季節によっては行事が重なる場合もあります。地域内で調整を図っていただいたり、市の内部でも全庁で予定等を確認し合って調整を図ったりしているところです。一挙に整理することは難しいと思いますが、ご意見として承りたいと思います。

(地元意見)

むらづくり協議会のやどかり部の部長をしています。

鳥取市から移住定住や空き家調査を依頼され、大変頑張っているつもりです。空き家がありますが、あまりにも古く、また田舎なので2階建てで、とても大きな家が多いです。そのような空き家を移住者に紹介しようと思っても、改修に多額の費用が必要で、紹介しようとしてもしょうがないのが実態です。良いところから一つずつ紹介していますが、これから先は、改修費用がかかり過ぎてどうしようかという状況になっています。新聞に、古民家を活用するような国を挙げた取り組みに関する記事も載っていましたが、何か良い手立てがないでしょうか。補助制度でもあればと思います。

(地域振興局長)

以前は本市でも、移住者が実施する新築や改修に対する補助制度を設けていました。ただ、現在は個人の資産形成的な助成はやめ、家財道具の処分費に対する助成制度を残しています。家財道具を処分される際には、こちらの制度をご活用いただきたいと思います。

また、熊本や東北など大きな災害があった地域からの移住者に対しては、改修の助成制度を残しています。

(地元意見)

対象となっている空き家は、築100年も経過しておらず古民家ではないのですが、非常に大きいです。こういった家は、最近では、入居したいと言う人はいくらでも出てきます。ところが、トイレも風呂も昔のままで、水回りを改修しなければ新しい方に入居していただくのは無理だと思います。しかし、改修するとなると300万円から400万円は費用が必要です。あまんじゃくには財源がありませんので、どうしたものかと頭をひねっています。

個人に対する助成はしていないとのことなので、例えばですが、10年間は必ずどなた

かに入居してもらえよう措置を考えて、家主からあまんじゃくが家を10年借り受けるという方法で、受け皿となるのはどうでしょうか。実際に具体的な方策があるわけではありませんが、そういった形ができないか、検討してもらえないでしょうか。

(地域振興局長)

対個人の直接的な支援は難しいですが、空き家の有効活用は中山間地域対策の一つでもありますので、そういった制度を活用すること、もう一つは、現在、日本財団が県に入って、地域活性化に関するモデル的事業に対して5年間で30億円の投資を計画されています。特に、中山間地域の活性化にも活用したいと考えておられるようですので、そのような支援を上手に活用するのも一つの案ではないかと思います。またお互いに知恵を出し合って研究していきたいと思います。

(地元意見)

私が子どもの頃は、村の中も山の中も整備されていましたが、今では、ちょっと山に入れば草が生えています。先日も兵円に上がろうと思ったら、牧場があった所は自動車が通れないような状態になっていました。

私は、電気工事関係の仕事をしていろいろな所を回りますが、電気柵がすごいです。そして、メッシュが張りめぐらされていて通るに通れない状態です。山の方がそうになっているのは分かりますが、今では村の方まで電気柵やメッシュが張られています。道路脇は何十mにもわたってイノシシが掘っています。民家の横にもイノシシが掘った跡があります。

何だかイノシシに攻めて来られているような感じです。私の家の畑も、作物を作ってもすぐにイノシシが入ってきます。イノシシはもう電気柵も覚えてしまっていて、尻から入ってくるのだそうです。そして一度入ると学習するので、電気柵が効かなくなるそうです。

過疎を通り過ぎて、イノシシや鹿などの動物に占領されていくような感じがします。電気柵やメッシュのない地域にしてほしいです。

国道53号線を奥地の方まで行くと、家の周辺をネットで囲ってあるような所もあります。人が家に入る時は蚊帳のようにして入らないといけません。庭から外に出ようと思って庭をぐるぐる回っても出る所がなく、また1周して元の所から出るような状態です。田んぼは周囲をメッシュで完全に囲っています。何とも言えないような状態になっていると私は思います。

(深澤市長)

同様のお話は、私も伺うことがあります。動物と人間の棲み分けや共存ができなくなっているような状況が、鳥取市はもとより全国各地であります。

以前のような里山の手入れがなくなり、動物と人間との緩衝地帯が曖昧になっている、あるいはなくなっていることも原因の一つではないかと思えますし、温暖化により個体数も増えています。また、一度人間の領域に出てくるといろいろな食べ物があるなど、いくつもの理由があって共存できないような状況があるように思いますので、電気柵やメッシュも、やむを得ない部分もあるのではないかと考えています。

一挙に解決することは、現時点ではなかなか難しいと思います。回答になりませんが、これからも引き続き動物とうまく共存していくような方法を探していくしかないと思いますので、ご理解いただければと思います。

(地元意見)

中核市に移行すると、保健所業務が鳥取市に移譲されるということです。

最近の医療は病後に重点が置かれていて、予防医学が置き去りにされているように感じています。保健所業務が移譲されたら、予防医学にシフト換えすることを要望します。

なお、予防医学を学習する拠点は、ぜひ地区公民館にしていきたいと思います。

(深澤市長)

私もその通りだと思います。昨日も、鳥取県後期高齢者広域連合の定例議会がありましたが、議員の皆さんからこの話が出てきました。この広域連合は、75歳以上の後期高齢者の医療を県下全市町村が共同で運営していこうと、平成20年度から取り組んでいる組織です。

やはり、医療費はどんどん増えてきています。昨年度は、国全体で41兆5千億円だったと思います。9年連続でどんどん増えていきます。そして、病後ということだけでなく予防に努め、健康寿命を延ばしていくことを、これから重点的に取り組んでいかなければいけない状況にあります。日本は、平均寿命はどんどん延びていますが、健康に過ごすことのできる年齢は平均寿命と一致していません。できる限りみんな元気で過ごせるようにということです。広域連合としても、市町村に対して、予防に努めていこうという呼びかけをしていこうと話したところです。

鳥取市も、疾病予防、病気予防ということで、早目に検診を受診することで病気を早期に発見、治療し、いつまでも健康に皆で過ごせるようにといったことに重点的に取り組んでいます。がん検診の受診率も50%を目標に取り組んでいます。少しずつではありますが、こういった取り組みの効果は出てきていると思います。

そしてもちろん、新しい地区公民館でそういうことを話し合っていただく機会でも持たせていただけるのは、ありがたいと思います。

9 市長あいさつ

一言お礼のご挨拶を申し上げます。

本日は、遅くまで熱心にご議論、ご質問をいただきました。また、様々なアイデアもいただいたように思います。一般社団法人西郷工芸の郷あまんじゃくを受け皿にして、民家を活用できる方法はないかというご提言もいただきましたので、何かできないか、少し研究したいと、お話を伺いながら思ったところです。

鳥取市では、平成18年9月から移住定住専用窓口を設置しており、今年7月で2千人の方に移住定住していただきました。これからも、鳥取の良さ、西郷の良さをもっと多くの皆様に知っていただき、移住定住の地として選んでいただけるよう、私もしっかり頑張っていきたいと思っておりますし、皆様と一緒に、そういった取り組みをもっと進めていきたいと改めて思ったところです。

この地域づくり懇談会は2年に一度の開催であり、また、時間も限られていますので、皆様のご意見を十分いただけていないかと思いますが、また総合支所や本庁担当部局にもお気軽にご質問やアイデアをお伝えいただければありがたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日の地域づくり懇談会にご出席いただいたことに重ねて心から感謝申し上げ、ご挨拶に代えさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。